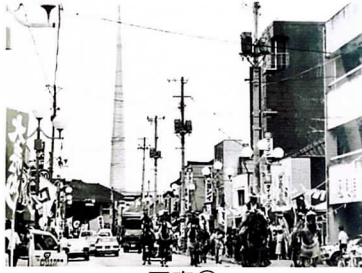


変わりゆく 私達の街

菅野一吉

私達が生まれ育った街は違いますが、皆さんは故郷を離れて「どれくらい」になりますか。私は生まれ育った町を離れた事なく生活してきました。10年ひと昔という諺がありますが、私が社会人になってから原町市は少しずつ変わってきました。昭和52年当時の駅前には色々な商店(写真①)があり、人の往来も多く賑わっていました。昭和の終わり頃から駅前の開発が始まり、多くの商店や住宅が立ち退き、新たな街が造られてきました。人の流れはあまり良くなく計画通りに



写真①



写真②

昭和57年には原町市のシンボルの無線塔が老朽化のため解体され、歴史ある無線塔が無くなりました。新たな街の風情が造られ、駅前には市民交流施設として図書館が建てられ、多くの市民が利用する様に変わってきました。また震災後から12年が経ち駅前のホテル2軒(ホテル丸屋 グランド・ホテル西山)も新しくなり利便性も良くなりました。



三嶋神社の氏子総代を拝命して9年目は是非一度は初詣に

は行かず、中途半端な状態で終わってしまい、改めて都市開発計画が見直され現在(写真②)の町並みに変わってきました。

震災後南相馬市の人口は元に戻る事なく、5月1日現在5万7千人弱、市内の至る処の古い建物は解体され更地に、また南相馬市地域の除染が終わった事からアパートの空き家も目立つ様になってきました。

多くの家族が放射能汚染から身を守る為に、生まれ育った街を離れ県内外で避難生活を続けています。「安全」「安心」は絶対補償された言葉ではなく自分達で判断しなければならぬと思えます。福島第一原子力発電所が完成し、原子力発電は「明るい未来のエネルギー」と当時の小学生が標語を考え、住民に慣れ浸しんだ言葉でしたが、まさかこの様な事態になるとは誰も思ってもいなかったと思います。一年に幾度となく被災地(富岡・大熊・双葉・浪江)の復興復旧の様子を視てきていますが、福島原発に近い町ほど復旧は進んでおらず、住民

が安心して住める状態になるまでには何年掛かるは分かりません。本来在るべき所に灯りがなく、荒廃した家屋や雑草が生い茂っており、人の往来が有った街並みを取り戻せるかは、高齢化社会の中では少し難しいかと思っていますし、住民意向調査では30%弱の住民が戻りたいと言っているが、後継者が戻らないと令和の大合併があるのでと思っています。それぞれの町長さんが関係者と協議し、多くの人が安心して生活出来る環境を整えてもらえば、失った『灯り』を取り戻せ、暮らしやすい町に出来るかがこれからの課題になってくると思っています。

東日本大震災と原発事故から十二年がたった今

紺野ヒロ子

二〇一一年三月十一日、十四時四六分、車を運転していたあの時、衝撃は起こった。



海上タクシー上で(土鹿半島～金華山)

「何これ? どうしたの?」今までに経験した事のない激しい揺れに、恐怖と怯えで固まってしまった自分。あの時の出来事は忘れることができません。

その三日後またもや何が起こったのか。「すぐ逃げろ!」着の身着のままサンダル履きで車に飛び乗り、ただひたすら遠くに走り続けたあの日...

あれから十二年... 三六戸あった隣組も戻ってきたのは、わずかに十戸のみ。見渡せば荒れ放題の田畑。住んでいる人と言えれば私を含めすべて高齢者。家が解体され変わり果てた小高町。この現状を誰にぶつければ良いのか日々ストレスの日々を送っています。

人生一〇〇年と言うけれど、健康で毎日を通り過ぎていたら幸せですね。

OB会の日帰り旅行、金華山への参拝は小学校の修学旅行以来だったので青春時代を思い出し、とても楽しい船旅でした。

皆さん、足腰の丈夫なうちに楽しい思い出作りをして老後を楽しみましょう。

福東OB会 ホームページ



「福東OB会 ホームページ」で検索してください

総会・20周年記念式典 開催案内

【日時】9月10日(日) 9時30分～  
【場所】保原中央交流館を予定しています

訃報

・金澤武様(79歳) 3月22日永眠 謹んでご冥福をお祈りいたします